

五保の午の〜 土佐田野金蘭社中

音韻文素風正風のたよむはけは岡よむまの橋と
極付付まてに社中と廿とあつれ〜とん
〜お月中の七と五十四思よぬれ道善
の二を綴り抄中と括弧して極舞半巻と
な〜謹て靈あへ多國奉る

集山

今も清〜く風〜を〜
来おくれよおれを指さかきけて 可陽
名〜と拳〜を掛ておこはや 素朴
甲〜く〜お〜く月の若歌を、 如水
小田のや〜と猪の逢電、 吐虹
切味をま〜まためさぬ 山刀 守中
公達とお歸まりり女房 買魚
篠とつ〜雨〜からぬ時の鐘 菜芝
湊取りほ〜い〜も船 靈 南溟
お考〜む〜と思〜むの陰 僧 撫石
画〜も〜う〜もあ三芳野打巻 春洞

七
中〜初〜何再唐子物〜と名〜奉〜
鳴果下
似〜よ〜か〜と〜根〜けい〜透〜れ 素風

席上各名様の一句を借よ
陽 水 紅 朴 芝 魚 洞 中 石 江
陽 水 紅 朴 芝 魚 洞 中 石 江
陽 水 紅 朴 芝 魚 洞 中 石 江
陽 水 紅 朴 芝 魚 洞 中 石 江

文通
其雪

素風居士のむま〜と〜速思と管あ
孝心のけ〜た〜女家の第〜の〜い〜き〜く〜
花のほまけあ〜や
遅楽菴
五十年

末穂白口



